

# Lesson 17. バイアスと交絡

## § B. 交絡

# 関連性への影響と解釈

- 偶然 Chance
  - 統計学的推論
- バイアス Bias
  - 疫学的判断
- 交絡 Confounding
  - 観察された関連性

# 交絡

- 関心のある要因の効果が他の要因の効果と混ざり合っている(交絡している)場合

# 交絡

要因Aが疾患Bの危険因子であるかどうか調べる研究において、以下の時に要因Xは交絡している。

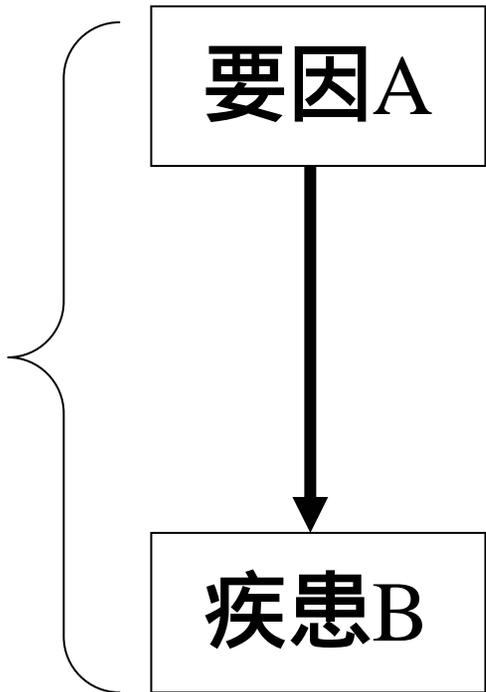
1. それが疾患Bの危険因子である時
2. それが要因Aと関連性がある時(ただし、要因Aへの曝露の結果ではない)

# 因果関係と交絡

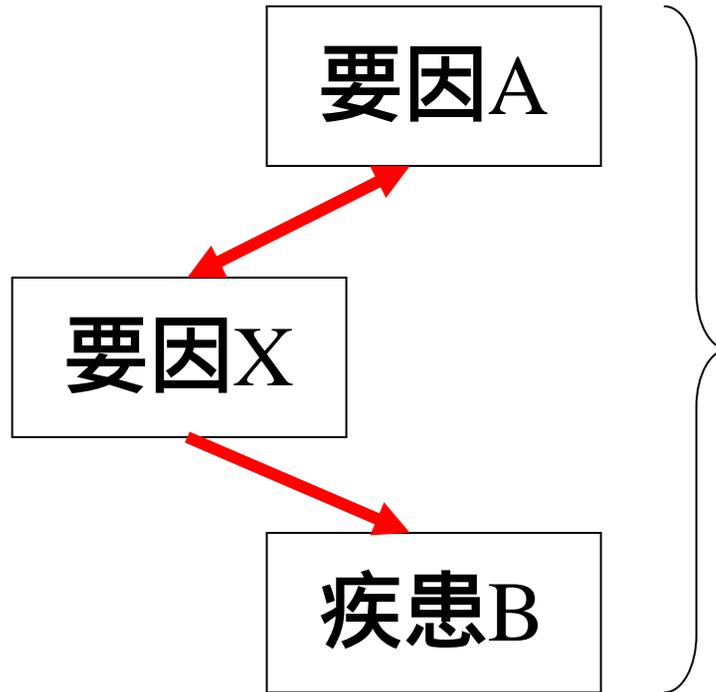
直接的

交絡

観察された関連性



観察された関連性



# 交絡の例

コーヒー飲用が膀胱癌の危険因子であるかどうか調べる研究において、以下の時に喫煙は交絡している。

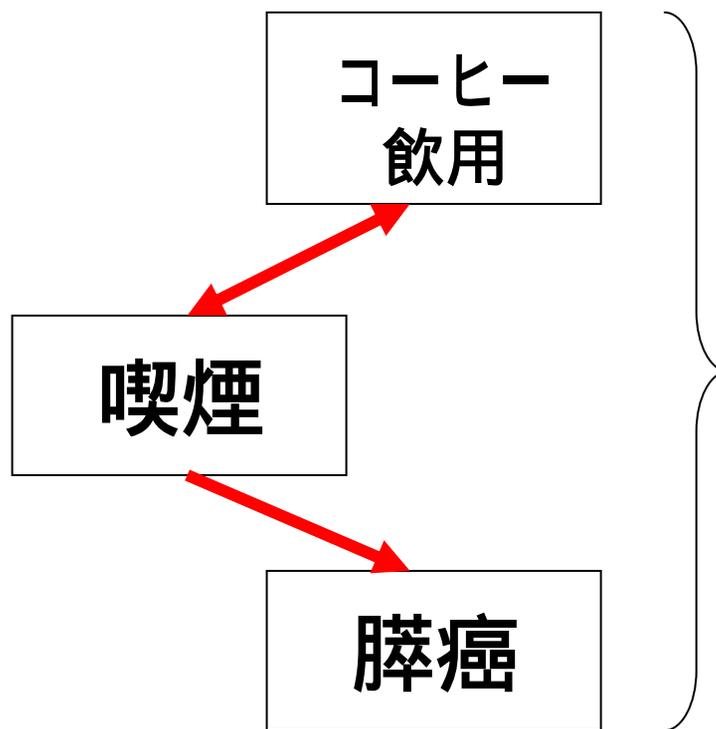
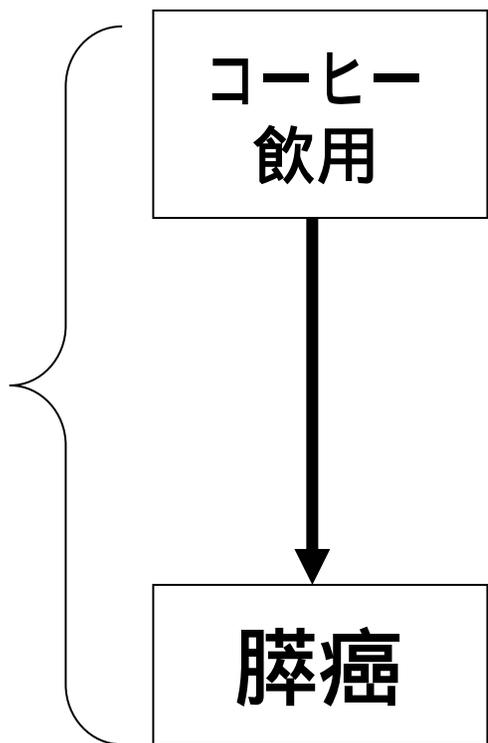
1. それが膀胱癌の危険因子として知られている時
2. それがコーヒー飲用と関連性があるが、コーヒー飲用の結果ではない時

# 交絡の例(コーヒー飲用と膀胱癌)

直接的

交絡

観察された関連性



観察された関連性

# マッチングしない患者対照研究 で起こる交絡の例 - 1

曝 露	症 例	対 照
+	30	18
-	70	82
合 計	100	100

$$OR = \frac{30 \times 82}{70 \times 18} = 1.95$$

観察された関連

# マッチングしない患者対照研究 で起こる交絡の例 - 2 症例と対照を年齢分布で分ける

年 齢	症 例	対 照
<40歳	50	80
40歳	50	20
合 計	100	100

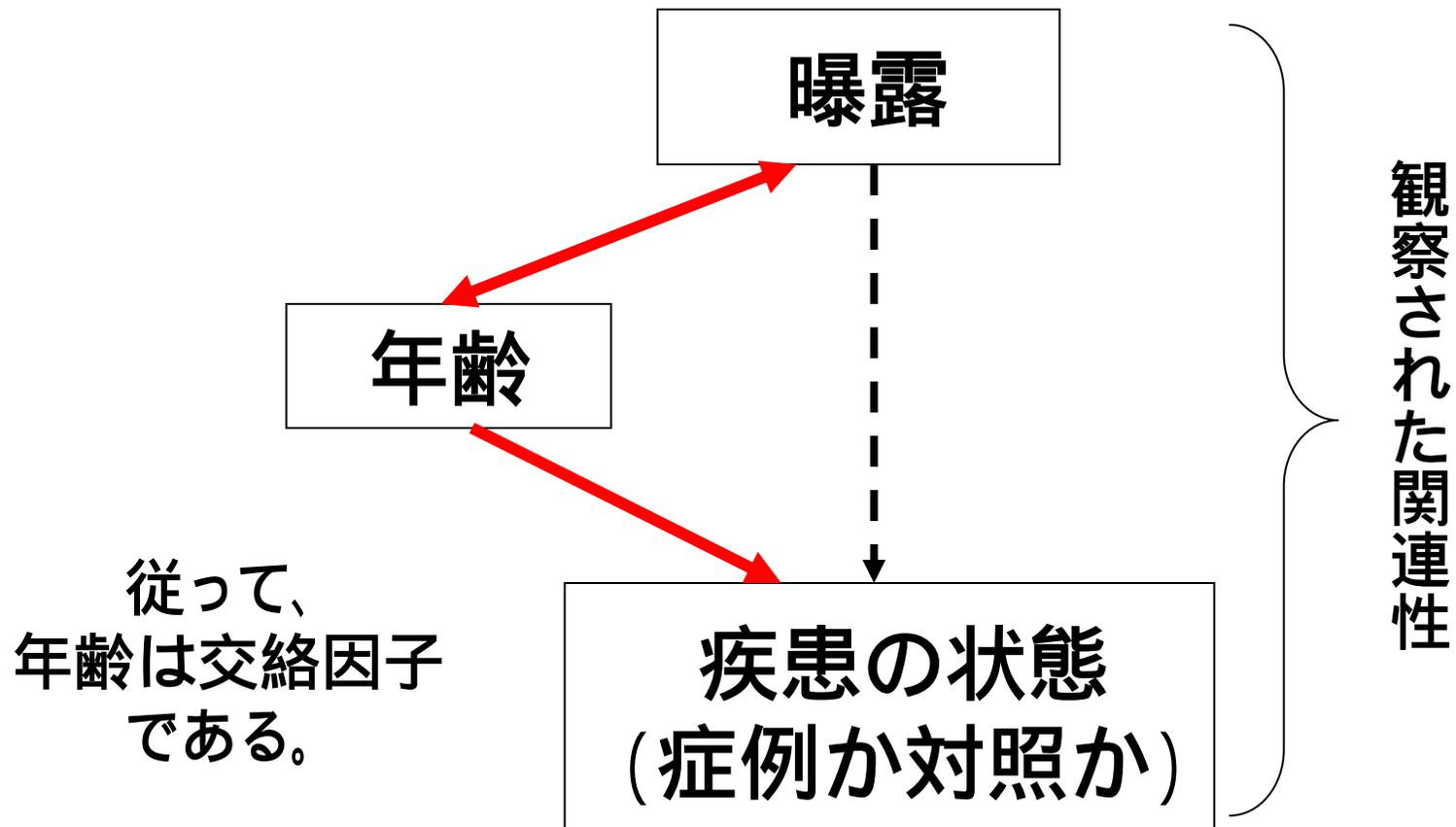
症例のほうが年齢が高い

# マッチングしない患者対照研究 で起こる交絡の例 - 3 年齢に対する曝露の関係

年齢	合計	曝露 +	曝露 -	曝露 割合
<40歳	130	13	117	10%
40歳	70	35	35	50%

年齢が高い層で曝露の割合が高い

# マッチングしない患者対照研究 で起こる交絡の例 - 4



# マッチングしない患者対照研究 で起こる交絡の例 - 5

## 層化解析によってオッズ比を計算

年齢	曝露	症例	対照	オッズ比
<40歳	+	5	8	$\frac{5 \times 72}{45 \times 8} = 1.0$
	-	45	72	
	合計	50	80	
40歳	+	25	10	$\frac{25 \times 10}{25 \times 10} = 1.0$
	-	25	10	
	合計	50	20	

年齢で層化すると、観察された関連が消失する

# 交絡因子の制御

## 1. 研究のデザインや実施時

- a. 無作為化 Stratification
- b. 限定 Restriction
- c. マッチング Matching

## 2. データ解析時

- a. 層化 Stratification
- b. 標準化(調整) Standardization (Adjustment)
- c. 多変量解析 Multivariate analysis

# 無作為化

1. 研究対象者選択時に無作為に標本抽出をする。
2. 介入群と対照群の割り付け時に無作為に割り付けする(比較対照試験の場合)。

# 限定

- 研究に参入させる対象者を限られた特性を持つ者に限定する (選択基準の設定)。

# マッチング

- 調べたい要因以外の要因(特性: 例えば年齢、性別)について症例と一致している者を選択する。
- 患者対照研究

# 層化

- 収集したデータで同じ特性を持ったグループ(層 Strata)に分けて、層毎に分析する。
- サブグループ分析

# 層別による相対危険度の例

## (コーヒー飲用と膀胱癌)

喫煙	コーヒー飲用(杯/日)			合計
	0	1~2	3	
なし	1.0	2.1	3.1	1.0
以前喫煙	1.3	4.0	3.0	1.3
現在喫煙	1.2	2.2	4.6	1.2
合計	1.0	1.8	2.7	

# 標準化

- 結果に影響すると考えられる要因により重み付けをして分析する。
- 年齢調整死亡率

# 多変量解析

- 調べたい要因以外の要因も変量(共変量)として統計学的に処理をする。
- 重回帰分析、多重ロジスティック分析、比例ハザードモデル、等